

2020 年度事業報告

(1) 全体報告

〈2020 年度の組織体制〉

館長 小野田俊蔵（歴史学部教授）
研究協力者 安藤 佳香（歴史学部教授）、齊藤 隆信（仏教学部特別任用教員（教授））、
佐古 愛己（歴史学部准教授）、宮澤 知之（歴史学部教授）、
八木 透（歴史学部教授）
兼任学芸員 齊藤 利彦（歴史学部教授）
専任学芸員 熊谷 貴史（契約専門職員）、長谷川奨悟（契約専門職員）
事務局 山口 乾（課長）
土本 頌子（派遣職員）〔2020 年 12 月まで〕、木村 恵美〔2021 年 1 月より〕

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した行事

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、以下の行事の開催を中止した。

時期	行事
2020 年 4 月 13 日（月）～5 月 10 日（日）	平常展示
2020 年 5 月 10 日（日）	第 43 回シアター公演 「音楽のクロスロード 歌の玉手箱」
2020 年 5 月 30 日（土）～7 月 18 日（土）	春期特別展 「ほとけのヘアスタイル—それは単なるオシャレではない—」
2020 年 6 月 13 日（土）	春期特別展関連講演会 「ほとけのカミ—オシャレの向こう側」
2020 年 11 月 7 日（土）	秋期特別展関連イベント「広沢大茶会」
2021 年 1 月 23 日（土）	第 44 回シアター公演 「祝福芸 万歳—安城の三河万歳—」
2021 年 2 月 23 日（火・祝）	第 45 回シアター公演・学術シンポジウム 「竹田聴洲フィルム資料デジタル化事業」

2020 年 3 月 3 日から 8 月 31 日まで、新型コロナウイルス感染防止のため、臨時休館した。

2020 年 9 月から 2021 年 3 月にかけては、6 月に定めた「感染防止対策ガイドライン」に則り、感染防止対策を講じつつ展示を開催した（詳細は、(2)「新型コロナウイルス感染症との対応記録」を参照）。

2020年9月1日(火)～9月30日(水) 平常展示「祈りと祀り、そして暮らし」

〈24日間〉(入場無料、日曜・祝日休館)

会 場：第一・第二展示室

来館者：49名

内 容：第一展示室で祇園祭の特集展示を開催。新型コロナウイルス感染の影響で祇園祭の主な行事が中止されたことをふまえ、綾傘鉾保存会より展示に協力したいとの申し出があり、山鉾巡行に使用予定だった山鉾を含む祇園祭綾傘鉾関連資料を展示した。第二展示室では、園部校地出土考古資料と前川家民俗資料を展示した。

2020年10月24日(土)～12月5日(土) 秋期企画展「煎茶の嗜み」

〈37日間〉(入場無料、月曜休館)

会 場：第一展示室 ※第二展示室では平常展示の展示を継続

来館者：657名

内 容：当初は秋期特別展「煎茶と売茶翁」を企画していたが、京都市外からの展示品借用を取りやめて展示規模を縮小し、展覧会名称も「企画展・煎茶の嗜み」へ変更した。本学にご出講いただいている小川流煎茶七世家元の小川後楽氏の協力のもと、小川流煎茶の歴史・伝統を紹介した。

2021年1月6日(水)～1月30日(土) 平常展示「祈りと祀り、そして暮らし」

〈21日間〉(入場無料、日曜・祝日休館)

会 場：第一・第二展示室

来館者：21名

内 容：第一展示室では、本学園部校地開発の際に行われた学術調査によって出土した考古遺物とその調査記録資料を展示。第二展示室では、当館が所在する嵯峨野の歴史や文化を紹介する「嵯峨野学事始め」と「近世京都商人前川家伝来の什物」を展示。

2021年2月13日(土)～3月19日(金) 冬期企画展「佛大逍遥Ⅶ—民俗学の資料を紐解く—」

〈30日間〉(入場無料、日曜・祝日休館)

会 場：第一展示室 ※第二展示室では平常展示の展示を継続

内 容：第一展示室では、当館資料と寄託資料の中から、民俗学関連資料を中心に展示。主な展示物は、「役行者像」、嵯峨大念佛狂言関連資料、千本ゑんま堂大念佛狂言関連資料、竹田聴洲関連資料、綾傘鉾関連資料、六斎念仏関連資料、「民間念仏信仰の研究」、護符類。

第二展示室壁面では、京都市の文化遺産総合活用推進実行委員会が主催する「京都・右京区地域文化活用事業」に協力し、京都の三大念佛狂言のパネル 10 枚を展示した。



図 1-1 秋期企画展チラシ



図 1-2 冬期企画展チラシ

2. シアター行事

2020 年 9 月 26 日 (土) シアター上映会「震災にも負けない民俗芸能」

開催方法：宗教文化シアターを会場とした有料公演（鑑賞料 1000 円）を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、観客を入れる開催を中止。映像上映、映像の解説、鎮魂演奏を編集した映像コンテンツを制作し、10 月より本学 WEB にてオンデマンドで公開した。

上映映像：「3.11 東日本大震災—民俗芸能の応え」（制作：東北文化財映像研究所 /2013 年度）

「いわて三陸海岸 東日本大震災後にみた祭りと民俗芸能 Part5」

（制作：東北文化財映像研究所 /2020 年度）

演奏・解説：森 美和子氏（篠笛奏者）

内 容：2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北地方のみならず各地に大きな被害をもたらし、民俗芸能も様々なダメージを受けた。大震災からまもなく 10 年を迎える。被災した民俗芸能が復興していく記録を映像で振り返り、改めて当時の犠牲者への鎮魂の祈りを捧げ、復興活動への連帯の心をもう一度新たにするため、東北文化財映像研究所のご協力を得て、復興の歩みを記録した映像の上映と復興の活動に尽力されてきた篠笛奏者の森美和子氏による鎮魂の演奏を企画した。

2021年2月6日(土)14:00～17:40 シンポジウム「^{えんどんかい}円頓戒—^{つた}どう伝え、^{たも}どう持つ?—」

開催方法：宗教文化シアターを会場とした入場無料の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン（Zoom ウェビナー）にて開催した。

講演：山極 伸之（仏教学部教授）「戒とは何か」

報告：小野田俊蔵（歴史学部教授、当館館長）「習慣を変える勇氣」

齊藤 隆信（仏教学部特別任用教員（教授））

「円頓戒をどう伝え、どう持つのか～教師養成を通して～」

池上 良慶氏（浄土宗寶泉寺住職）

「授戒会を通して圓頓戒を伝える～布教の立場からどう伝えどう持つのか～」

寺井 良宣氏（天台真盛宗別格本山西来寺山主）

「布薩会を通して円頓戒を持ち伝える」

内容：今から1400年前に創唱された円頓戒は、それまでの大乘仏教の戒を整理し表現し直した上で発信された。中国と日本の天台宗で伝えられ、天台宗から分派した各宗派でも相承されて現在に至っている。私たちの考え方や身の処し方を拘束して自由を奪うような過去の遺物ではなく、むしろ日常の中に有効活用させれば、今よりも安心・安全・安穏な暮らしがきっと実現できる教えである。円頓戒の教えをどのように適切に伝授し、さらにそれを実践へと運用し実生活の中に活用できるようになるかについて検討した。



図 2-1 9/26 上映会チラシ



図 2-2 2/6 シンポジウムチラシ

4. その他の学術講座

2020 年 11 月 28 日（土）佛教大学四条センターとの連携講座「民俗学者竹田聴洲が遺した記録映像資料をめぐって」

形態：オンライン講座（鑑賞無料）

講師：長谷川奨悟（宗教文化ミュージアム学芸員）

民俗学者竹田聴洲が遺した昭和 30 年代後半の仏教系民俗芸能に関する資料のデジタル化の取り組みについて解説。デジタル化・音声同期化した映像の一部を上映し、半世紀前の民俗芸能の芸態や習俗を紹介した。当初は 8 月下旬に佛教大学四条センターを会場に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで開講した。

5. 研究協力者

新型コロナウイルス感染防止の措置が実施された影響により、実質的な調査を断念するなど、研究協力者の活動にも数々の支障が生じた。

氏名	研究部門	所属	研究課題
安藤 佳香	①シルクロード ②浄土宗文化	歴史学部教授	①中国・新疆地域の造形作品にみる線描とエネルギーイメージの研究 ②8～11 世紀における木彫仏の調査研究 —浄土宗寺院伝来像を中心として
齊藤 隆信	浄土宗文化	仏教学部特別任用教員（教授）	浄土宗と戒律
佐古 愛己	歴史文化	歴史学部准教授	広沢池を中心とする平安京北西部郊外の歴史と文化に関する基礎的研究
宮澤 知之	歴史文化	歴史学部教授	中国貨幣文化経済史の研究
八木 透	歴史文化	歴史学部教授	現代日本の民俗信仰と民俗芸能をめぐる調査研究

2020 年 7 月、新型コロナウイルス感染終息の兆しが見えず、先の見通しが立てにくい不安定な時期に次年度の研究計画を具体的に作成することは困難と判断し、2021 年度の研究協力者の募集を中止した。次年度は、募集制度を含めた研究協力者のあり方を再検討し、当館の事業遂行に必要な事業協力体制をどのように構築するかを、様々な観点から検討する。

6. 博物館実習生の受け入れ

8 月 24 日（月）～8 月 27 日（木）および秋期企画展開催中の 1 日間の日程で、本学通学課程から実習生 23 名を受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、他館へ実

習に行けなかった学生も受け入れたため例年以上に多人数となった。資料の取扱方法など基本事項、展示に向けた諸作業を実践的に学習。実習生の成果の一部を9月の平常展示に反映した。

7. 地域連携・社会貢献活動

佛教大学ホームカミングデー

新型コロナウイルス感染防止をふまえ、本学での開催は中止され、11月3日(火・祝)、Web上でのイベント発信として開催された。当館は、館内をバーチャル映像で体験する動画コンテンツ「バーチャルミュージアム」を配信した。

京都・大学ミュージアム連携

文化庁補助金事業「京都文化の他地域への発信プロジェクトー「スポーツ」の視点から」が、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて筑波大学を会場とする展示は中止され、Webによる開催となった。当館は、佛教大学の前身である佛教専門学校の文字が刻印された「整地ローラー」、スポーツ系の部活動の様子がうかがえる昭和10年度と昭和12年度の「佛教専門学校卒業アルバム」の計3点のパネルを出展した。

京都市内博物館施設連絡協議会

「夏のミュージアムに行こう」(7月18日(土)～9月30日(水)、デジタルパンフレットのみ)に9月の平常展示で参加。「第25回京都ミュージアムロード」(2月7日(日)～3月21日(日))にも参加予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

ミュージアム体験学習会、浄土宗寺宝めぐりツアー

近隣小学校の小学生を対象とした体験学習会、一般人を対象とした浄土宗寺宝めぐりツアーは、新型コロナウイルス感染防止のために開催を中止した。

(2) 新型コロナウイルス感染症との対応記録

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、あらゆる事業が影響を受けることとなった。当館では、3月3日（火）より、感染防止のために臨時休館した（開催中の2019年度冬期企画展「矢吹慶輝が遺した研究資料」は会期中途中で終了）。

1. 新型コロナウイルス感染防止ガイドラインの策定

3月初旬からの臨時休館以降、新型コロナウイルスの国内の感染が拡大し、平常展示（4月）、第43回シアター公演（5/10）、春期特別展（5/30～7/18）、春期特別展関連講演会（6/13）の開催をやむなく中止した。

その間、6月15日（月）には、公益財団法人日本博物館協会や本学の指針を参考に、「宗教文化ミュージアムの活動再開に向けての感染防止対策ガイドライン」を策定した。

「宗教文化ミュージアムの活動再開に向けての感染防止対策ガイドライン」

- ・全ての活動について、京都府の方針、および「通常活動に向けた各種活動の基準（佛大版）」を目安とするが、今後の地域の感染状況によっては、制限の緩和または再度の中止を行うことも想定している。
- ・展示、公演等の再開にむけた具体的な感染防止対策は、公益財団法人日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づいて定める。

◆展示の感染防止対策

感染拡大防止の対策を十分に行いつつ開催する。

◆準拠したもの 公益財団法人日本博物館協会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」 展示会の実施に際して講ずるべき具体的対策（要旨）

- (1) 施設（展示室、窓口、ロビーや休憩スペース、トイレ）の清掃、消毒、換気の徹底的な実施。
- (2) 人の密集・接触を避ける工夫。対面で会話や飲食の回避、他社と共有する物品や手が触れる場を最低限にし、フロアマーカ等を設置して来館者同士の距離を確保。施設の状況に即した入館可能人数の制限を設ける。
- (3) 飛沫感染、接触感染の防止策。展示物や展示ケースと来館者の距離を長めに設定、直接手で触れることができる展示物は展示しない、展示室内における会話制限、特定の展示作品の前に大勢の人数が滞留しないための措置。配付物は手渡しで配付せず据置き方式とする。
- (4) 来館者に対して来館自粛を求める条件（健康状態等）を事前にホームページ等に周知、施設の入り口にも明示。また、来館時の咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒を要請。
- (5) 来館者の氏名・緊急連絡先を記載した名簿を作成する等、感染者が発生した際に来館者へ注意喚起を行える体制を講じる。また、来館者に対して、こうした情報が必要に応じて公的機関へ提供され得ることを事前に周知する。
- (6) 感染の疑いのある者が発生した場合に速やかな連携が取れるよう所轄の保健所等との連絡体制を整える。施設内で体調を崩し感染が疑われる者が発生した場合の対応を定める。

(1) 施設の清掃・消毒・換気の徹底

- ・展示室扉ドアノブ、ホールや展示室内のイス、トイレ等、共用部分の定期的な消毒。
- ・展示室は、換気システム（ロスナイ）を稼働する。

(2) 人の密集・接触を避ける工夫

- ・受付・ホール床にテープ等で立ち位置を明示し、人と人の密集を防ぐ。ホール、展示室の長イスに「間隔を開けての着席」を要請する貼り紙。
- ・展示ケースへの接触、展示室内での会話を控えることを要請する。
- ・一か所の展示ケースに大勢の人が滞留しないように留意して展示物を配置する。
- ・混雑時は展示室への入館制限を行うことをホームページ「お知らせ」で周知する（制限人数は検討中）。20名以上での団体来館は、事前予約制とする。
- ・学芸員による展示解説を求められることがあるが、当面は中止する。

(3) 飛沫感染・接触感染の防止策

- ・当館スタッフはマスクを着用する。
- ・受付カウンターに飛沫防止用のガードを設置する。
- ・図録販売時に手指の接触を防ぐため、コイントレーを使用する。

(4) 来館者への注意喚起

- ・咳・のどの痛み、37.5℃以上の発熱など体調が勝れない場合や、新型コロナウイルス感染者との濃厚接触が疑われる場合は来館を控える要請文をホームページに公開し、館入口に掲示する。
- ・来館時のマスク着用、手洗いやアルコール消毒への協力、発熱が確認された場合は入館を断る場合がある旨の注意文をホームページに公開し、館入口に掲示する。

(5) 来館者の連絡先等の把握

- ・受付時に来館者全員に「入館者カード」（氏名・連絡先記入）への記入・提出を要請する。

・なお、カードで得た個人情報の取り扱いについて次の通り周知する。

- ① カードで得た情報は1カ月間保存し、その間当館で感染が発生しなければ破棄する。
- ② 行政機関より入館者情報の提出を求められた場合に提供する。
- ③ これらの情報は、上記目的以外には一切利用しない。

(6) 感染の疑いのある者が発生した場合の対応方法の決定

- ・本学危機管理対策本部へ通知すると共に、所轄保健所へ連絡し指示を受ける。
- ・体調不良者が出た場合の待機場所を、1階の共同研究室（実習室）と定める。

◆公演、講演会、シンポジウムの感染防止対策

感染拡大防止の対策を十分に行い、全ての行事に対して、出演者、出演団体と遅くとも開催3か月前から感染防止対策に留意した演出について協議し、近畿圏の感染状況が悪化した場合は開催中止についても検討する。

◆準拠したもの 公益財団法人日本博物館協会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」博物館における公演等の開催に際して講ずべき具体的対策（要旨）

展覧会の実施に際して講じる具体的対策を行ったうえで、

- (1) 施設運営上の密集回避、飛沫感染の防止。劇場内での十分な座席の間隔の確保、窓口で販売時の飛沫防止、公演等の前後及び休憩中に会場内の換気。
- (2) 公演運営上の接触感染の防止。公演来場者と接触するような演出は行わないこととする。
- (3) 来館前の検温の実施の要請のほか、来館を控えてもらう条件を事前に周知する。
- (4) 各回の公演等ごとに来場者の氏名・緊急連絡先を把握し、名簿を作成する。来場者に対して、こうした情報が必要に応じて公的機関へ提供され得ることを事前に周知する。
- (5) 公演等のスタッフの氏名・緊急連絡先を把握し、名簿を作成する。公演スタッフに対しても、こうした情報が必要に応じて公的機関へ提供され得ることを事前に周知する。

(1) 施設運営上の対策

- ・展示時と同様に、当館スタッフはマスクを着用し、受付には飛沫防止用ガードを設置し、受付での金銭授受にはコイントレーを使用する。受付・ホール床にテープ等で立ち位置を明示する。シアター・シアター廊下のイスやドアノブ、トイレ等、共用部分の定期的な消毒を行う。
- ・大勢の来場者への感染防止配慮を十分に行うため、行事開催当日は、受付補助として大学院生アルバイト2名程度を雇用（予定）。アルバイトの雇用の可否は「学生入構」「通学授業」における大学の活動レベルを目安に判断する。
- ・開催当日は、当館スタッフ（館長・参加教員・事務職員・学芸員・派遣職員・学生アルバイト）は来館時に検温・体調チェックを行い、健康状況を確認する。
- ・シアター行事の客席定員を通常は130名としているが、半分の65名とする。
- ・シアターの席配置は、1席ずつ開けて配置し、「着席禁止」の紙を貼る。介助者・要介助者が隣り合って鑑賞希望した場合に配慮することも検討中。
- ・大勢が来館するので、玄関入口の混雑を回避するため、玄関入り口は「入口専用」とし、ふだんは閉鎖しているシアター廊下のトビラを「出口専用」とし、出入口での密集を防ぐ。
- ・公演やシンポジウムのパンフレットは手渡しせず、据置き方式とする。
- ・シアターでは休憩中にドアを開けて会場内を換気。出演者楽屋も窓を開けて換気する。

(2) 公演運営上の飛沫感染の防止

- ・行事の演出については、出演者・出演団体と遅くとも開催3か月前から協議し、お客

を舞台に上げる等のワークショップは行わない、休憩時間にトイレの混雑が予想されるため休憩時間を長くする等、感染防止対策をふまえた演出とする。

(3) 来場者への注意喚起

- ・展示への注意喚起と同様に、①来館者に来館自粛を求める条件の提示（37.5℃以上の発熱など）、②来館時のマスク着用等の協力要請、③発熱が確認された場合は入館を断る場合がある旨の注意文、をホームページと館入口掲示で周知する。

(4) 来場者の連絡先等の把握

- ・要事前申込の行事の場合は、申込の受付時に氏名・緊急連絡先を記録し、名簿化する。
- ・事前申込不要の行事の場合は、展示開催と同じく、入館時に入口で「入館者カード」への記入を求め、情報は名簿化する。
- ・いずれの場合も、事前申込や入館者カードで得た個人情報の取り扱いについて周知する。

(5) 公演スタッフの連絡先等の把握

- ・出演者（団体は代表者）の連絡先等については、すでに出演承諾の交渉を通じ把握している。
- ・出演団体の代表者以外の出演者全員の氏名・連絡先を、事前に確認して名簿化しておく。
- ・いずれの場合も、当局より名前・連絡先の提出を求められた場合対応することを事前に了解を得ておく。

2. 行事の再開

8月以降、国内の感染状況が変化してきたことをふまえ、他の博物館の開館状況や感染防止対策を参考にしつつ、9月1日より展示（平常展示）を再開、10月下旬からは秋期企画展、1月は平常展示、2月中旬から冬期企画展を開催した。開館中は、「佛教大学宗教文化ミュージアムの新型コロナウイルス感染防止対策について」をWebおよび当館入口にて公開し、入館時の「入館者カード」の記入と提出を義務づけ、当館スタッフが感染防止対策チェックリストに従って感染防止の対策を徹底した。

いっぽう、シアター行事は、感染防止のため、以下のとおりの対応となった。

●9月26日（土）シアター上映会「震災にも負けない民俗芸能」

会場に観客を入れる開催を中止、9月26日にシアターで行事を撮影し、編集した映像をWeb「宗教文化ミュージアムオンデマンド」で公開

●11月7日（土）秋期特別展関連イベント「広沢大茶会」

開催を中止。代替として、小川後楽堂にて煎茶お手前の作法のデモンストレーションや煎茶の歴史と文化の解説を撮影し、編集映像をWebよりオンデマンドで公開。

- 1月23日（土）第44回シアター公演「祝福芸 万歳—安城の三河万歳—」
開催を中止。
- 2月6日（土）公開シンポジウム「円頓戒—どう伝え、どう持つ？—」
オンライン（Zoom ウェビナー）により開催。シンポジウムの映像は、オンデマンドでも公開。
- 2月23日（火・祝）第45回シアター公演・学術シンポジウム「竹田聴洲フィルム資料
デジタル化事業」
開催を中止。

佛教大学宗教文化ミュージアムの新型コロナウイルス感染防止対策について

佛教大学宗教文化ミュージアム

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため臨時休館しておりましたが、公益財団法人日本博物館協会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、感染予防対策を実施した上で開館いたします。来館者の皆さまの健康と命を守るため、次の対策を講じますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

○当館の予防対策について

- ・当館職員はマスクを着用して対応すると共に、毎日の検温を行うなど、体調管理に十分留意いたします。
- ・展示室、トイレをはじめとする共用部分の定期的な消毒をおこないます。
- ・受付カウンターには、飛沫防止用のガードを設置いたします。

○ご来館の皆さまへのご協力のお願い

- ・以下に該当する方はご来館をお控えください。
 - ◇咳・のどの痛みや37.5℃以上の発熱があるなど体調がすぐれない方
 - ◇過去14日間以内に新型コロナウイルス感染症陽性者または濃厚接触者との濃厚接触が疑われる方
 - ◇過去14日間以内に入国制限のある国・地域への渡航歴がある方、およびそれに当該する居住者と濃厚接触のある方
- ・来館時には、マスクの着用や手洗いにご配慮いただき、館内に設置のアルコール消毒液を利用するなど、感染予防にご協力ください。
- ・咳や発熱の風邪の症状、息苦しさや強いだるさなどがある方、マスクの着用をされていない方の入館はお断りいたします。
- ・入館時に「入館者カード」に氏名・連絡先等のご記入・ご提出をお願いいたします。この情報は1カ月間保存し、その間当館で感染が発生しなければ破棄いたします。
- ・「入館者カード」の情報は、保健所等の行政機関より求められた場合に提供します。
- ・展示室での会話はお控えください。また、展示ケースに触れないようお願いいたします。
- ・混雑時は入館人数の制限を行わせていただく場合があります。
- ・団体（20名以上）でのご来館の場合は、事前に電話で予約してください。予約無しでの団体のご来館は入館をお断りする場合があります。
- ・学芸員による展示の解説は、当面の間、中止とさせていただきます。

佛教大学宗教文化ミュージアム
入館者カード

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館日時、氏名、ご連絡先等について、ご記入のうえ、ご提出をお願いします。

下記についてお読みいただき、該当する場合は口を✓を記入してください。 チェック

- ・風邪のような症状や体調不良、37.5℃以上の発熱はありません。
- ・過去14日間以内に、新型コロナウイルス感染症陽性者または濃厚接触者との濃厚接触はありません。
- ・過去14日間以内に、自身や同居者に入居制限のある海外への渡航歴はありません。
- ・館内ではマスクの着用、アルコール消毒など、感染防止対策に協力します。

来館日時	令和2年	月	日	午前・午後	時	分
氏名						
連絡のつきやすい電話番号およびメールアドレス						
お住まいの市(区)町村						

【個人情報取り扱いについて】

- ・ご記入いただいた情報は、以下の新型コロナウイルス感染症対策にのみ使用します。
- ・当館で新型コロナウイルス感染症の疑いが生じた場合のご本人への連絡
- ・保健所等の行政機関への情報提供
- ・この情報は1か月間保存し、その間当館で発生しなければ破棄いたします。

資料3-1

佛教大学宗教文化ミュージアム 新型コロナウイルス感染防止対策チェックリスト
< 展示用 >

年 月 日

項目	確認
展示の設置時に行うこと（設営終了時にチェック）	
1	ホール・展示室の床に密集防止の立ち位置を明示 はい・いいえ
2	玄関入口に来館者への鑑賞注意事項を掲示 はい・いいえ
3	展示室に来館者への鑑賞注意事項を掲示 はい・いいえ
4	受付に飛沫防止ガードを設置 はい・いいえ
5	ホール・展示室のイスを間隔を空けて配置、注意文を貼付 はい・いいえ
6	入口にアルコール消毒液を配置 はい・いいえ
7	玄関入口に「入館者カード」記入コーナーを設置 はい・いいえ
8	体調不良者待機場所（実習室）の設置 はい・いいえ
展示開館前に行うこと（毎日、10時開館の前にチェック）	
9	館内監視モニターの正しい作動を確認 はい・いいえ
10	スタッフの体温を測定し健康状態を確認 はい・いいえ
11	ホール、展示室のイスを消毒 はい・いいえ
12	トイレの点検（手拭ペーパー、液体石鹸、ゴミ箱、トイレのフタ） はい・いいえ
13	第一展示室入口ドアノブを消毒 はい・いいえ
14	展示ケース(ガラス)の汚れを清掃 はい・いいえ
15	受付の飛沫防止ガードの消毒 はい・いいえ
16	入口のアルコール消毒液の残量を確認 はい・いいえ
17	ホール2か所のドアを開放し換気 はい・いいえ
18	第二展示室のロスナイ換気はONになっているか はい・いいえ
19	「入館者カード」、使用前鉛筆、使用済鉛筆箱の確認 はい・いいえ
20	体調不良者待機場所（実習室）の換気 はい・いいえ
午後14時に行うこと（毎日、昼休み後にチェック）	
21	ホール、展示室のイスを消毒 はい・いいえ
22	トイレの点検（手拭ペーパー、液体石鹸、ゴミ箱、トイレのフタ） はい・いいえ
23	第一展示室入口ドアノブを消毒 はい・いいえ

(3) Web コンテンツの公開

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、博物館・美術館においては大規模な展覧会や関連イベントの相次ぐ中止や規模縮小を迫られ、全国に緊急事態宣言が発令されるに及んで、臨時休館を余儀なくされることとなった。こうした事態の中で、多くの博物館では、高画質での所蔵資料やVRなどを使用した施設紹介、塗り絵など子ども向けのコンテンツのWeb配信など、インターネットを舞台に博物館・美術館の魅力を発信する動きが活発となり、Webコンテンツの制作公開の社会的重要性が高まった。こうした取り組みは、今後も多くの機関で持続的に推進されていくと推測できる。

当館においても、2020年7月、当館の現在の取り組みや過去の研究成果を編集した映像コンテンツを制作し、本学WEB内の当館サイトへ「佛敎大学宗教文化ミュージアムオンデマンド」と題して公開を始めた。無観客での収録に切り替えたシアター上映会、秋期特別展関連イベントの代替コンテンツなど、6本のコンテンツを公開した。今後も持続的な配信を予定している。

1. 「或る仏像制作の風景 feat. 仏師僧 前田昌宏」

春期特別展として開催を予定していた「ほとけのヘアスタイル—それは単なるオシャレではない—」に関する記録映像の一部（展覧会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）。仏師僧・前田昌宏氏による仏像制作の様子を、WEB公開用に展覧会の趣旨とは異なる視点で編集した。

2. 「チベット軸装絵画の制作工程」

当館の1階ホールに展示している「チベット絵画の制作工程」について、当館館長小野田俊蔵が解説した。

3. 「シアター上映会 震災にも負けない民俗芸能」

新型コロナウイルス感染拡大防止のために観客を入れての開催を取りやめたシアター上映会「震災にも負けない民俗芸能」の記録映像。東北文化財映像研究所が制作した映像を上映し、篠笛奏者森美和子氏と館長との対談、森氏による鎮魂の演奏を公開した。

4. 「煎茶を嗜む—小川流器局玉露手前—」

秋期特別展の関連イベントとして11月7日に予定していた「広沢大茶会」の開催を、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。イベントに代わる事業として、小川流煎茶家元のご協力を得て、器局玉露手前の実演と解説を記録した映像コンテンツを制作した。煎茶独特の道具やしつらい、所作、お茶席。そこに具わる美。小川流では、お茶の旨

味を凝縮した数滴を喫す「滴々のお茶」が煎れられる。そのような煎茶の歴史・伝統のエッセンスを紹介した。

5. 「民俗芸能を担う若者たち」

地域の大人たち、若者たち、子どもたちへと時代の状況に対応しながら伝承されてきた民俗芸能は、少子高齢化や後継者不足、伝統や地域行事をめぐるまなごしの多様化などの社会状況の変化によって危機的状況に陥り、明日へと向かうなかで岐路に立たされている。こうした現状が地域をこえて問題共有されるようになった。当館では、このような問題意識を背景に、2019 年度に「民俗芸能のネクストジェネレーションズ」というシリーズ公演を立ち上げた。

本コンテンツでは、シリーズ第 1 回目の公演で招聘した嵯峨大念佛狂言保存会とその若手育成の場である嵯峨狂言クラブの子どもたちの活動にスポットを当て、同保存会の若手育成の取り組みについて紹介した。

6. 「円頓戒—どう伝え、どう持つ?—」

新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催としたシンポジウムの映像を公開した。